

樹齢80年のスギを構造材に使った

在来工法。子ども部屋は壁で囲まず

風が抜けるつくりに

藤井ゆりあちゃん(10歳)

玄関を入るとほのかな木の香りが、22坪の敷地なのに、そこには、明るく伸びやかな空間が広がっていました。

お母さんの千雅さんは若いころ、病気で2年間入院。そのときの薬が体に合わず、アレルギー体質になってしまいました。その後出産したゆりあちゃんにも、アトピーの症状が出るように。

「最初は輸入住宅を建てたいと思っていたのですが、ちょうどそのころ転勤になってしまって。転勤先のビニールクロスがはられたマンションで、具合が一層悪くなり、いつも窓を開け放って暮らす毎日。そこで、じっくり健康にいい住まいについて考えました。」

そして出した結論が、2×4工法の輸入住宅より、在来工法の家

のほうがいいのではないかと、いうこと。

そんなときに出会ったのが、「木の家づくりネットワーク」代表の山中さんです。山中さんは、日本の伝統的な木造住宅のよさに着目し、日本の材木を使った家づくりを続けています。使うのは、江戸時代から250年間植えられていたという山形県の金山スギ。今採れる材は樹齢80年ほど。これならしっかりと家を支える構造材になります。

藤井さん宅では吹き抜けの空間には、梁が巡り、窓のまわりは筋交いで構造を支えています。

吹き抜け上の3階に机を置いて、ゆりあちゃんの勉強コーナーに。壁で囲わず、光や風を感じる気持ち



すっかり元気になったゆりあちゃん。リビングのコーナーは鏡をはって、毎日バレエのレッスンを励んでいます。

ちのいい場所。ピアノやダンスのお稽古はリビングでします。

「体にいいこと、はもちろんですが、個室にこもらず、いつもみんなの気配が感じられる家にしたいかったです」と千雅さん。

リビングの床はナラ材、子ども部屋は汚れてもすぐ拭き取れるように、ホルマリンを含まないフローリング材に。壁はしつこい塗りに。さらに各部屋の扉はなし。これでいつも家族の気配が感じられるし風の通りもよくなります。

木の家は、時がたつほどに味わいを増し、子どもがつけた傷跡も、家族の歴史の印になります。愛着を持って長く住み継ぐことができるのも、体にやさしい家だからこそなのです。





天井は金山スギを薄く削ったものをでんぶんのりではっている。断熱材は燃えたときに有毒ガスを発生しないポリプロピレンを使用。

内装材はすべて自然素材。接着剤も使わない



壁は本当は珪藻土にしたかったが、予算の関係でしっくい塗りに。ところどころにあけた飾りの穴が、風を通す役目も果たす。



これはリビングの床のナラ材。接着剤を使わず、クギやビスで固定している。子ども部屋はホルマリンの問題の少ないフローリングに。



個室をつくらない間取りで通風を確保

日当たりのいい2階がリビング、3階が子ども部屋という間取り。リビング上は吹き抜けにし、階段回りにも個室にも扉はいっさいなし。風が家じゅうを巡り、湿気もおいもこもらない。

安心素材の作り付け家具に

ここに引っ越してくる前に、手持ちの家具はすべて処分してしまっただという藤井さん。家具はノンホルマリンのシナ材で作りに。机は、ナラの集成材の天板にシナ合板の引き出し。



太い無垢の木で構造を支え、壁をつくらない

梁や柱など構造材には、樹齢80年の金山スギを。壁で構造を支える2×4と違って、柱や梁が構造材となるので、空間が広びろと使えるのも、日本の伝統的な建て方。仕切りがないので風通しもよい。



山中文彦さん

フィールドネット一級建築士事務所代表。日本の木材を使った伝統的な日本の家づくりを提唱している。

☎03(5301)2811
http://www.kinoie.ne.jp